
眠れない夜の月明かり

百合茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

眠れない夜の月明かり

【Nコード】

N2809B

【作者名】

百合茶

【あらすじ】

眠れないのは不安だから？決心がつかないから？すっきりしなくて考える。私はあの子のライバルじゃない…。

また、爪を噛みたい衝動にかられる。

駄目だ、ここは押さえないければならない。この癖は直すべきだ。

口元にやった左手が、急に手持ちぶたさになり、パチンと指を鳴らした。

これで魔法がかかればいいのに。

不安なんかこのコミカルな音と一緒に消えてしまえば、もう爪を噛まなくて済む。

って、何考えてるんだ。馬鹿らしい。

気付けば、壁の向こう側からテレビの音が途絶えている。ケータイの画面右上で、一気に数字が3ケタになった。

あーあ。日付変わっちゃったよ。

毎日ある英語の授業が最近辛い。アルファベットを見ると眠くなるのは、こうして無駄に起きているからだ。

分かってはいるけど、私の半乾きの頭は夜気にさらされて、パツチリ冴えてる。

いいかげん、窓を閉めよう。

そついい聞かせるけど、もう少し澄んだ空気を吸いたかった。

月が綺麗だ。

不意にそう思った。いくら季節感の無い沖縄と言えど、冬の空はやはり高い。吸い込まれそうな墨色の彼方に星が瞬き、白む月は美しい。山裾のイルミネーション・ロードなど、一時のまやかしに過ぎない。

人はなぜ、光に惹かれるのだろう。

輝かしいもの、美しいものに人は執着する。そして、いつか光そのものになる事を夢見て現実とのギャップに失望する。

そんな事、知ってる。憧れる前から知ってた。だから、皆サラリ

ーマンになっただんでしょ？

特に親しくもない同じ部活の子が勝負を持ち掛けてきた。レギュラー争いを遠巻きに眺める私でも、期末テストではライバルになるらしい。前までそんな事なかったのは、トップの子に必死に追い付こうとしていたからだろう。

私はトップと比べたら格は下。天空の月や星達よりもずっと幼稚な光だ。こんな私に勝っても、あの子が得るのは一時の満足感ぐらいだ。そして、もし負けたら更に失望感に潰される。

憧れは抱かない方がいい。押し潰されるだけだから。

私はため息をついて、窓を閉めた。全反射で自分の姿とその奥の机が写る。

他人をものさしにするなよ。

私のライバルならここにいます。

人との勝負なんて、曖昧過ぎる。

そんな曖昧な勝負に『ライバル』なんて言葉は、生易しいもんじやない。

期末テストの結果は自己最高席次をはじき出したけど、私は負けだと思っている。あの子にじゃない。自分にだ。

平均点がたまたま低くて、席次が上がっただけのこと。勝敗はちゃんと自分が知っている。誤魔化しは効かない。

だから断言する。

負・け・た！

ガラスに息が触れて、青白い光を湛えた月が、ぼやけて輪郭がはっきりしなくなった。

それでも、私の姿はきちんとそこに写っている。

パチン！

やっと心の整理がついた。

魔法がかかったかどうか知らないけれど、今日は爪を噛まずにすんだ。

カーテンを締める間際、ガラスに写るライバルのおでこにデコピンした。明日からは月の光に見守られてぐっすり眠れそうだ。

（後書き）

私の人生論『ライバルは自分。』これを打ち出すのに、いろいろと
苦労したな……。 （しみじみ）

もう少し自分に厳しくなりたい百合茶です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2809b/>

眠れない夜の月明かり

2010年10月19日13時04分発行